

# 岡崎にボランティア塾開校

## 耳が不自由な 子の自立支援

耳が不自由な子どもたちの独り立ちを願ったボランティア塾「寺小屋そら」が、岡崎市に誕生した。コミュニケーションが難しく孤立しがちな子どもたちをさまざまな面からサポートし、社会に送り出す場として期待されている。(鈴木和歌奈)

### 勉強を手助け

仲間作り  
にも一役



塾の責任者は、県立豊橋(ろつ)学校非常勤講師の今村彩子さん

(三七)。自身、生まれつき耳が不自由で、情報に限界があることを実感していた。「勉強だけでなく、社会に出て壁にぶつかった時に乗り越えられたい」と、県の子育て支援モデルに選ばれたNPO法人「つくし」(名古屋市)と協力して開校した。

塾の指導者は、今村さんをはじめ、ろう学校の先生や母親と話す今村さん、岡崎市の県営鴨田住宅で

非常勤講師や愛知教育大学の学生ボランティアら手話のできる数人。毎週木曜日、岡崎市鴨田町の県営鴨田住宅集会所を借り、子どもたちに宿題や漢字などを教えている。

今村さんは、米国で学んだアメリカ手話に加えて、学習の合同をみて自分の体験を基に、耳の不自由な子どもたちが日常生活をスムーズに過ごすための情報も伝える。

例えば歯科医院で歯を抜いてもらったことを例に挙げ、自分の意思を歯科医師にどう伝えたかを教えているという。

塾は友達をつくる上でも役立つという。塾が終わっても、子どもたちは友達とおしゃべりできなかったか帰らない。今村さんは「自分に自信が持てなくなる子どもにとっ

て、同じ境遇の友達は精神的な支え。社会に出た後に挫折を乗り越えられる大きな力になる」と信じる。

教科指導と手話の両方

ができる先生の不足や、週一回の塾では十分に勉強が教えられないなどの

茶  
製造元  
南山園

不安も。しかし、今村さんやボランティアは話し合いを重ねながら、子どもたちが自分らしく伸び伸びと成長できる塾作りを励んでいる。

問い合わせは、寺小屋そら名古屋事務所「電・フアックス052(752)8203」へ。Eメールアドレスはtsukusui@topaz.ocn.ne.jp